

A background image featuring several pink, spiky flowers, possibly from the Asteraceae family, set against a soft, out-of-focus blue background. The flowers are the central focus, with their delicate petals and stamens clearly visible.

## 高山右近ゆかりの地でリコーダー演奏 その2



## キリシタン遺物史料館（茨木市）

茨木市の千提寺や下音羽地区などは、かつて、高山右近の領地だった所です。

今から90年前（1919年、大正8年）、千提寺の東（ひがし）さんの持ち山で「上野マリヤ」のキリシタン墓碑が発見されたのを皮切りに、徳川時代の禁教の間もひそかに受けつがれてきた、貴重なキリシタン遺物が明らかにされてきました。東家の「開けずの櫃」の中に納められていた「聖フランシスコ・ザビエル画像」など。東家から出てきた遺物を中心に、常設展示してくださっています。



## 南蛮文化館・右近書状

大阪市の中津にある南蛮文化館には、「南蛮屏風」などの貴重なキリシタン遺物や南蛮美術品が収集され、春と秋（5月・11月）に特別公開してくださっています。毎回出かけて行っていますが、一番のお目当ては「高山右近書状」です。おゆるしをいただいて、右近書状の前でリコーダーを吹かせていただいているんですよ。書状と笛がよく響き合い、ぜいたくな気分のひととき。



## 澤田美喜記念館（大磯）

高山右近は、ルソン島のマニラに国外追放されましたが、その航海の途中、流木を手にとって刻んで仕上げたと伝えられている「マリア像」が、澤田美喜記念館に大事に保管・展示されています。「祈るマリア像」ですが、小刀を用いて、祈りつつ、仕上げていかれたことでしょう。そして、それは、祈る右近自身の姿でもあったことでしょう。

左上のマリア像です。



## 聖イエス会金沢教会・右近点前の像

金沢に出かけていくことがあれば、毎回、この「右近点前の像」（米 治一・作）と対面させていただいています。

右近は「利休七哲」の一人と言われ、「利休極上一の弟子也」と言われていました。前田利家に招かれて金沢に移ってからも、武将としてだけではなく、お茶の面でも大きな影響を与えていかれたことでしょう。茶人・右近の心が伝わってくる傑作です。



## 緑水苑（金沢）

右近の指揮のもとに、1599年に27日間という短期間で、金沢城の東西の内惣構堀が仕上げられていきました。主計町（かずえまち）にある「緑水苑」の辺りには、西内惣構堀の遺構が残されており、市民のいこいの場所として、美しく整備されています。桜の頃は、特にステキですよ。



### 彦三緑地（ひこそりょくち・金沢）

「緑水苑」の近くにある「彦三緑地」は、加賀藩士・遠田氏の屋敷だった所で、ここにある灯籠の一つは、右近ゆかりのキリシタン灯籠であると伝えられています。

金沢に出かけましたら、朝の自転車散策（ホテルの無料のレンタサイクル）で出かけていき、朝の空気の中で、美しい花たちに囲まれながら、リコーダーを吹くのを楽しみにしています。

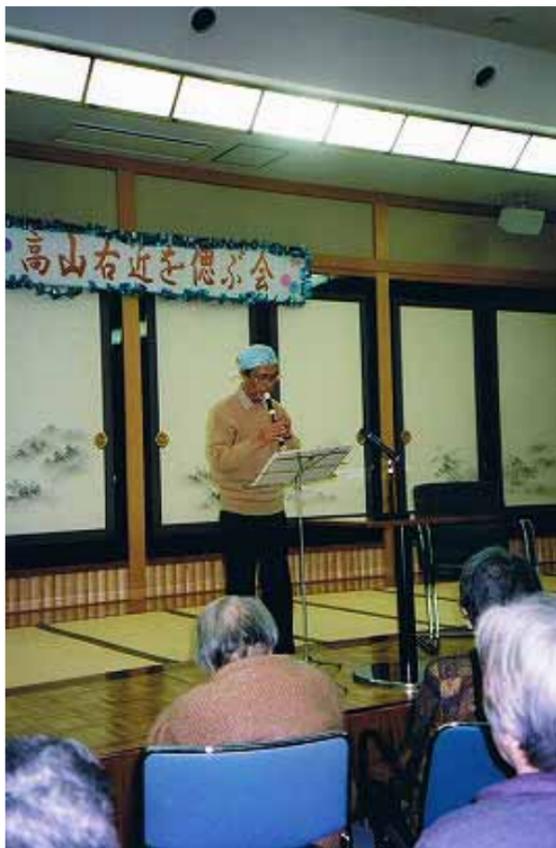
右近うた 吹けばうぐいす 朝の歌



## 高山右近をしのぶ会

金沢・殉愛キリスト教会の山縣実牧師が会長となられて、「高山右近をしのぶ会」（事務局長・長谷川一夫）の集まりがもたれています。毎年、右近ゆかりの地を旅行されていますし、総会では、「右近賛美のひととき」で、山縣実牧師・作曲の右近賛美が、教会の聖歌隊によってささげられています。私も、リコーダーで参加させていただいているんですよ。

右近賛美・・・右近を賛美するのではなく、右近を題材として、主なる神を賛美する賛美歌



## 朱鷺の苑・諸江（もろえ）

「高山右近をしのぶ会」のメンバーで、金沢市の諸江にある「朱鷺（とき）の苑」に出かけて行きました。歌や紙芝居などで、金沢とゆかりのある高山右近のことを知っていただきました。一般の曲も吹かせていただきましたが、最後は「船頭小唄」の大合唱になりましたよ。



## 志賀（しか）の高山右近像

5つの同じ「高山右近像」（西森正昭・作）の中で、4番目に建てられました。静かで、広々とした能登の景色の中に、りりしく、右近さんが立っておられますよ。

すぐそばの山の中には、高山家の墓所があります。雑木林には、にぎわしく小鳥たちがさえずっていて、この辺り一帯が、右近さんをしのぶのにふさわしい、平和な地という感じがします。



## 宙天丘・鳴呼ジュスト高山右近

能登・志雄町の山口克人さんが、ご自身の持ち山に、この碑を建ててくださいました。能登の地には、右近の知行地がありましたし、志雄には教会があったことも記録されています。

碑の「鳴呼（ああ）ジュスト高山右近」は、釈迦院時雄さん（珠洲市在住）の書。



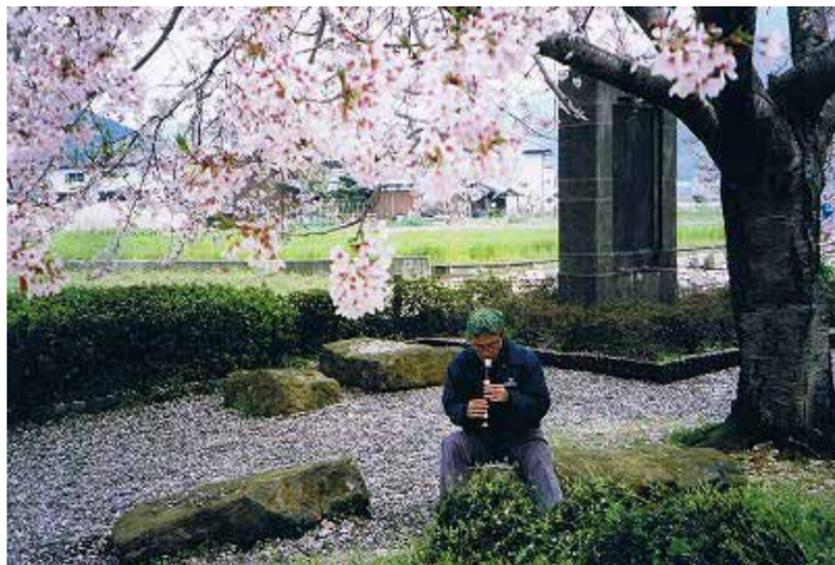
## 夕日の丘

「宙天丘」(ちゅうてんのおか)に続く「夕日の丘」に立ちますと、360°の景観がすばらしいです。遠くの山々から吹いてくる風が快く、更にここから、はるか右近ゆかりの地、果てはフィリピンのルソンにまで吹いてほしいという思いで、「ルソンより」(山縣実・作)の曲を吹かせていただきました。



## 高山家

高山右近の長男・十次郎の子孫だと思われ  
ます高山豊次さん（志賀町代田・しななた）  
のお宅を伺いました。高山家の応接間で、高  
山右近を歌った山縣師・作の曲を、高山さん  
・山縣師を前にしてリコーダーで吹かせてい  
ただきましたが、400年の時空を超えて、  
右近さんとの一体感を味わうことができましたよ。



## 安土セミナリヨ趾

訪れたこの時は、セミナリヨ趾の公園の数ある桜が、落花の盛んな時で、風はほとんどなかったのに、食事をしていても、リコーダーを吹いていても桜吹雪の中で、何とも夢のようなひとときだったんですよ。しかも、私たち夫婦しかいなくて、このすてきな夢空間を二人占めして、満喫させていただきました。すぐ目の前には、安土城天主閣がそびえて建っていた、安土山が見えています。



## 高山右近屋敷跡（安土）

安土セミナリヨ趾から、安土山の麓をめぐるようにして西側に行きますと、安土川にかかっている大須田橋のたもとにある「高山右近屋敷跡」に立つことができます。やはりすぐ目の前は安土山で、天主閣がそびえていた時には、間近に迫って来る感じで見えたことでしょう。

「高山右近屋敷跡」に、碑や説明板が建てられているわけではありません。古地図に残されているだけですが、是非、ご自分で捜しあててみてください。



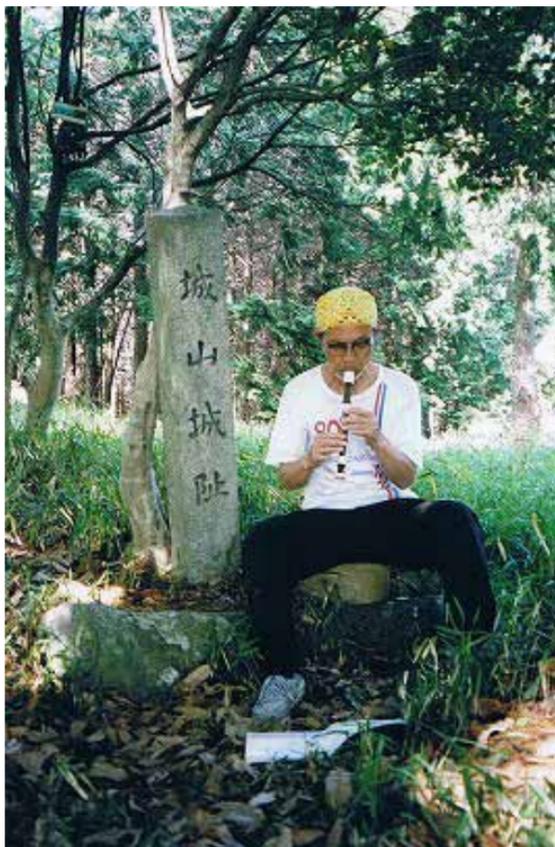
## 安土城・天主閣跡

山城であって、外観五重・内部七階建ての、豪華けんらんたる安土城の天主閣ですが、信長は、その後の城で使われる「天守」ではなく、「天主」の文字を使っています。ここで知り合った奈良の方に聴いていただきましたが、「安土城・天主閣跡でのリコーダー」を、とても喜んでくださいました。もし、「本能寺の変」がなかったとしたら、信長や安土城は、どのようになっていたんでしょうね？



## 右近こどもまつり・高山右近受洗之地

毎年5月5日にもたれています「右近こどもまつり」には、毎回出かけていっています。「高山右近受洗之地」の碑のそばで、地域の皆さんが作ってくださった「右近草もち」や、たき込みごはんのお弁当を買って食べるのが楽しみです。食後、芳野川（ほうのがわ）の堤まで行って、リコーダーを吹くんですよ。遠景に、12歳の彦五郎（後の右近）が洗礼を受けた沢城のあった城山がそびえています。



## 芥川城

若葉がかおる、5月のゴールデンウィークの一日、私たち夫婦は毎年、芥川城址に出かけていっています。右近が最初に高槻の地にやってきたのは、ここ「芥川城」です。高槻城主・和田惟政のもと、父・高山飛驒守が城番として芥川城をまかせられ、青年・彦五郎もいっしょにやってきたのでした。(17～18歳)

ここでも、人はめったにいないくて、昼食のあと、城址に、リコーダーの音がひびいていきます。



## 大阪・崇禅寺、細川玉子の墓

細川ガラシアの最初のお墓となった崇禅寺の墓所にも、機会を見つけて出かけていっています。ガラシアさんは、今は天のパライゾ（天国）におられますので、このお墓におられるわけではありませんが、でも、彼女の信仰や生き方を想い、神の家族としての一体感を経験することができるんですよ。

ある時、「細川玉子の墓」の前でリコーダーを吹いていましたら、その音を耳にして、お寺の奥様が出て来られ、一緒にお聴きくださり、どうぞどうぞと勧めてくださったんですよ。



## 大阪クリスチャンセンター

大阪クリスチャンセンター（大阪市・玉造）のロビーに、この、マニラに追放されていく船上の右近の絵（石村正太郎・画）が掲げられていて、いつでも観ることができるんですよ。

当時、「国外追放」という刑の執行の方法はなかったのですが、右近をどう扱うか、その影響の大きさを考えた結果の方法だったのでしょう。

信仰故に、見知らぬ外国に追放されていくわけですが、キリシタンであり武将であった右近の、品位と威厳が、感じられます。



## 神田宏大（ひろお）牧師・出版記念講演会

神田宏大牧師（野崎キリスト教会）・著の「野崎観音の謎」が出版され、その記念の講演会がもたれました。（2008.6.7）

「クリスチャン新聞」の孫さんと共に準備させていただきましたが、多くの皆さんが集まってくださいました。

「野崎小唄」の賛え歌で、「野崎謎唄」を聞いていただきました。

野崎観音は 隠れキリシタンの寺か

.....